

1 点検実施率

- 平成28年度末時点での点検実施率（予定）は、計画に対して橋梁が-3.7%、トンネルが-10.5%、道路附属物が-6.6%と遅れている状況。
- 1/3程度の市町村で橋梁、トンネルの点検をH28～30年度に多く予定しているため、点検の前倒しや計画通りの点検実施が必要。

	計画	実施(予定)	差
橋梁	55.0%	51.3%	-3.7%
トンネル	48.3%	37.8%	-10.5%
道路附属物等	63.0%	56.4%	-6.6%

※)計画は、H27.11の「道路メンテナンス年報」の数値

※)実施(予定)は、H28.5月末時点の数値

2 点検および補修予算の確保

- 跨線橋、跨道橋の点検費用が予算を圧迫しており、点検実施に苦慮している。
- また、点検、補修設計、補修工事に要する財源が安定的に確保されていないのが実態。

3 自治体・職員の負担

- 技術系の職員が少ないために、点検の質（損傷の程度や評価、原因、進行性の有無等）の確保や今後、点検結果を踏まえた補修設計、補修工事を行っていく際の積算、関係機関協議、工事監理を実施する体制が十分ではない。